

農福連携を全国に 厚生労働省の前で障害者ら販売

農福連携の取り組みを周知しようと、厚生労働省と農林水産省の共催による「農福連携マルシェ」が11月10日に開かれた。会場の厚労省正面広場では無農薬・無肥料の自然栽培を行う7団体が、採れたての人参や小松菜、大根といった野菜、お米、農産加工品などを販売した。

開催セレモニーには塩崎恭久・厚労大臣、佐藤英道・農水政務官、「奇跡のリング」で知られる木村秋則さんらが参加。塩崎大臣は「障害者の精神面にも良く、工賃向上も期待でき、自立にもつながる。農福連携を全国的に展開していきたい」と話した。

自然栽培は手作業が多くなるため、それぞれの障

害や個性に合わせた仕事を提供することができる。出店した社会福祉法人無門福祉会の中本健太さんは「農地を1ヘクタールに拡大して自然栽培をしている。障害者が自発的に動くようになった」、社会福祉法人「ゼノ」少年牧場の松岡肖幸さんは「地域の人とのつながりができた。励みにもなっている」と話した。

農福連携とは、農家の後継者不足などで増大する休耕地で障害者が農業を行い安定した働く場とするもの。両省では農園整備費の補助などの支援を行っており、今後も施策を充実させていく。

(福祉新聞・第2740号 2015年11月23日)